

— 行かれた場所と期間はどうだったのでしょう?

大月 僕たちは大学院の授業等の関係で、5月の連休しか不可能で、4月28日に関西を出発し、気仙沼に翌日入り、鍼灸治療をスタートしたのは4月30日で、5月7日まで、約1週間でした。

高崎 気仙沼には森ノ宮医療大学に入学する前に勤務していたスポーツ系の専門学校での教え子がいて、その実家がフカヒレ工場を営んでおられ、そこも全壊でしたが、親御さんの尽力で、避難所の気仙沼総合体育館「ケー・ウェーブ」に治療所を開くことができたのです。



高崎 雷太 さん

大月 隆史 さん

須賀 私たちは1回目が4月3~5日、宮城県仙台市内と多賀城市内の避難所で、2回目が6月13~15日、仙台空港の近くの名取市の仮設住宅内の集会所でした。

鳥山 仙台市の宮城野区にあるボランティアセンターとずっと連絡を取っていたのですが、なかなか「OK」の返事がいただけなかつたので、とりあえず気持ちを行動で示したかったので、現地入りした形でした。

— 受け入れ先が明確に決まらない状態だったのですね。

須賀 そうですね。ただ、現地に行ってわかったのは、社会福祉協議会は避難所と直結できていなくて、当時はこんなボランティアの人たちが来ているという提案をするのが困難な状況で、まして要望を収集できる状態ではなく「鍼灸治療の要望がない」ということになっていたようです。それで組織としては派遣を要請できないということだったようです。

鳥山 それで、当初鍼灸治療を皆さんにアピールしつつ、泥運びの一輪車作りの手伝いをしました。でも、そこでボランティアの皆さんが泥んこになって働いている姿や、ボランティアセンターに登録に来た中・高校生が、声がかかるまで普通にゲームをして待っている姿を身近に感じられたのはよかったです。

— 鍼灸治療ができるようになったのはどれくらい経つからですか?

鳥山 早かったですよ。そんないきなり来られても…と、最初は言われたりもしましたが、ほとんどはそんな反応ではなくて、逆に「じゃあ、すぐ手配します」と。他のボランティアの方々のお手伝いをしつつ、鍼灸治療をアピールしていったら、「大阪から来ました鍼灸師です」という看板を作つていただけました。

清水 状況は日々変化していて、実際は臨機応変に対応することも必要なですね。

須賀 避難所では実際は需要があるのです。ただ、炊き出しとかのボランティアの皆さんの「じゃまにならないように」というのが基本だったので、その合間でさせてもらいました。そして移動した先でも携帯電話に「また来てほしい」と連絡があつて、最初の避難所に戻つたりもしました。

清水 やはり「鍼灸やります」とアナウンスしたら、わあーっと来られるのですか?

鳥山 そうですね。2日目の多賀城市では、前の日の夕方に市の担当者さんに連絡したら「避難所に鍼灸師の人が来たけど、どう?って皆さんに声をかけてみるわ」と言ってもらつて。

須賀 それに、ボランティアで泥掻きとか重労働をされている方々や職員の方々もしんどいから、声をかけてあげてほしいと言われて、指定された小学校では朝から夕方まで、予約制にしていただいて治療もしました。

— 現地で地元のコミュニティと連絡を十分に取られて、ネットワークを構築されたのですね。

高崎 僕たちは基本的には、重篤な患者さんも多分おられると思ったので、すぐにドクターにお願いできるように血圧と脈を測り、再診時も症状を聞き、血圧を測つてから治療をするようにしました。というのは、最初、治療所は医療チームのミーティングルームと背中合わせで、ドクターも毎日通られるし、最初は監視されているような感じだったのです。それでそのうちに「あそこは大丈夫みたいだね」という声が聞こえてきて、看護師さんからも「私も肩こりを取つてほしい」と言われるようになつたのです。

— 高崎さんたちの治療所(写真1)は、受付もあって治療ベッドも備わつていて患者さんも来やすい雰囲気ですね。

高崎 実は、僕たちは初心者ですから、ちょっとした作戦を立てたのです。ほとんどの患者さんは「鍼は痛くないですか」と言われるわけです。それで「痛いかもしれませんね。僕たち、初心者ですから」と言って施術すると、「あれ、痛くない」「でも、鍼、入つてますよ」と言つたら、「へえ、すごい」と。その会話が待つてゐる方に聞こえる。それで、鍼は痛くないという雰囲気ができて、それが増殖して行く…。

鳥山 ほんと、いい作戦ですね。

高崎 はい、僕たちは場合は、とくに環境づくりがプラスに働いたと思います。そこに行つたら鍼を受けなければいけない雰囲気を醸し出すようにしたわけです(笑)。ずるいでしょう、僕たち(笑)。

須賀 私たちは「鍼は痛くないですか?」と聞かれると、「痛くないです。上手だから」と(笑)。

大月 実際に、患者さんが治療開始前30分から、大体5人、多い日は10人ぐらい並ばれたのです。でも、治療できない患者さんも出てきて「あそこは予約を取らないと入れない」と間違つたうわさが流れたりしたのは、ちょっと困つたのですが。

— 治療された感じはどうでしたか?

高崎 「ケー・ウェーブ」には避難されていた方が当時約千人、相当



写真1 受付(右)で問診し、順番に治療ベッドに案内して施術(左)